

## 第14期 第9回 鳥取市校区審議会 議事録

1 日 時 令和2年2月18日(火) 9時30分 ～ 11時50分

2 会 場 鳥取市役所 本庁舎6階 第3会議室

3 出席者 【委員】

本名俊正委員(会長)、南部敏委員(副会長)、谷口英昭委員、音田正顕委員、上田光徳委員、吉澤春樹委員、川口有美子委員、山田康子委員、福山敬委員、牛尾柳一郎委員、森本早由里委員、民家幸世委員

【教育委員会(事務局)】

中村隆弘次長、竹田潤主幹兼指導主事、大坪宗臣主任

4 会議次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事録署名委員の選任
- 4 報 告
  - (1) 第8回校区審議会審議概要について
- 5 議 事
  - (1) 本市の中長期的な校区のあり方について
  - (2) 千代川以西エリアの学校のあり方について
  - (3) その他
- 6 その他
- 7 閉 会

5 議事の概要

事務局

ただいまより、第9回鳥取市校区審議会を開会させていただきます。

前回の第8回校区審議会では、中長期的な校区のあり方を考えるにあたり、エリア分けのパターンとエリア別の学校数についてご審議いただきました。前回のご意見を総合して、会長より2つのパターンをご提案いただいております。

本日は、「本市の中長期的な校区のあり方について」、「千代川以西エリアの学校のあり方について」の2つの議題でご審議をいただきたいと思います。

それでは、本名会長よりごあいさつをいただき、以降の会の進行をお願いします。

会長

(会長あいさつ)

それでは、議事録署名委員を選出したいと思います。名簿順により、山田委員、福山委員、よろしくをお願いします。

では、報告事項に入ります。事務局より説明をお願いします。

事務局

[資料説明]

## 会長

このことについて、何かご質問等はございますか。

エリアについて、前は鳥取市を6つのエリアに分けて考えましたが、旧岩美郡を千代川以東の北側と南側に組み込んだ方が自然ではないかというご意見があり、今回5つのエリアとしたパターンもご提案しています。もう一つは、義務教育学校について、20年後も存続させていくということと、場合によっては小学校・中学校を少し大きな形でまとめることも含めて、両方の可能性を残しておいた方がいいのではないかとご意見もありました。これらについては、また議事の中で、議論していただきたいと思いますが、前回の議事概要についてはよろしいでしょうか。

それでは、議事1「本市の中長期的な校区のあり方について」ですが、資料の説明を事務局より願います。

## 事務局

[資料説明]

## 会長

ここまでで、ご質問等はございませんか。

それでは最初に、6つのエリアに分けるか、5つのエリアに分けるかご意見を伺っていきたいと思います。エリアの考え方について方向付けをしていただきましたら、そのエリアの中の学校数の書き方などを含めてご審議いただきたいと思います。本日の参考資料の地図の中で、千代川以西の部分が義務教育学校0～2となっていますが、議事2の「千代川以西エリアの学校のあり方」で検討しますので、その議論によっては変更となり得るということで、ご覧いただければと思います。基本的には、校区審議会ですべて議論した基準に基づいた形で整理しています。学校数は、各エリアにいくつからいくつとといった整理をしておりますが、20年後ということで人口の推移もぶれる可能性があるのもう少し幅を持たせた方がよいということもあるかもしれません。場合によっては、基準を少し外れたとしても、ある程度の数を組み込んでおいた方がいいのではないかとご意見もあります。そういったものについては、数字のところには赤のアンダーラインを入れています。

では、エリア分けについて2つのパターンのうち、どちらが適当であるかご意見を伺っていきたいと思います。

## 委員

今後、どのエリアにどれだけの学校数が望ましいかということ、エリアごとに協議していただくということをご想定すると、5つの分け方が自然だと思いました。国府と福部だけで検討するというになると、生徒数を踏まえればおそらく選択肢が限りなく狭まってくるのではないかと思います。もう少し生徒数が多いエリアと合わさったところで、子どもにとってどれがベストなのか考えた方が、選択肢が広がっていいのではないかとご意見もありました。将来的に色々な考え方がしやすくなるというふうに思います。

## 委員

私も5つの分け方が、考え方が広がってくるのではないかとご意見もありました。

## 委員

20年後にどのように学校配置を検討していくときには、通学距離などを考えても5つの分け方がベストではないかとご意見もありました。

## 委員

私も5つの分け方が現実的ではないかとご意見もありました。この審議会ですれようとしていることは、長期

的なビジョンを示すという点で画期的なことだと思います。エリアの方々に学校のあり方を議論していただくために、提示されるものだと思います。もしかすると、地域住民の方には6つに分けたパターンの方がいいと感じられる場合もあるかもしれませんが、それも含めてこの審議会ではこういった案がいいと思いますかどうかという形で、地域で議論していただくきっかけにさせていただくという意味合いのものだと思います。20年後にはこうするということができちりと決めたというよりは、校区審議会ではこういった案が良いと思いますがいかがですか、という位置づけであると思います。私個人としては、20年後を考えるにあたっては、5つの分け方の方があり得るのではないかと思ったところです。

## 会長

エリアの皆さんに色々と考えていただく資料として提案したいと思います。この提案によって、色々な議論が行われてくれば、それをもとに次の案をいずれ示していければと考えています。

## 委員

私も5つのエリアに分けるパターンに賛同します。理由としては、今後、地元の方や関係者の方にご検討いただくときに、できるだけ色々なアイデアや可能性や選択肢を提示した方がいいのではないかと考えるからです。5つに分けた方が、そういった様々な可能性が増えそうだと思います。

## 副会長

私は前回の会議で6つに分けたパターンの方がいいと申し上げました。鳥取市マスタープランの中に、地域生活拠点づくりというものがあり、特に合併8町村にはそれぞれに地域生活拠点を置くということになっています。そういった鳥取市としての方針があり、これに準じて考えていきますと、地域の中心となる部分、福部町でいくと支所のある駅前エリアになると思います。郵便局・JA・病院・学校等があり、いずれも生活に必要ですし、それを踏まえると旧行政区で分けた方が考えやすいのではないかとということで6つのパターンがいいのではないかとということで申し上げました。しかし、20年後ということを見ると、状況が変わっていくだろうということも当然あるわけですので、今回私の中で考え方を考えまして、5つのエリア分けのパターンの方がいいのではないかと考えます。5つのエリア分けにしたとしても、福部や国府から学校をなくす、旧町村から学校をなくすという意味ではなく、あくまでも5つのエリアの単位で20年後の学校のあり方を考えていくということですので、むしろこの分け方の方がいいのではないかと考え方を変更した次第です。

## 委員

私も5つのエリア分けのパターンがいいと思います。これからの未来を担っていく子どもたちにとって、より良い教育環境を整えていくにあたっては、今回提案されたエリアのような大きなくくりの中で考えていくと、検討しやすくなると思います。また、通学距離のことなども総合的に考えて、このパターンの方がいいのではないかと思います。

## 委員

5つに分けるのがいいのか6つに分けるのがいいかという点では、5つの方がいいと思います。それ以上に、今回の資料を見て驚いたのは、20年間の間に気高・青谷・鹿野エリアで児童生徒数が約60%減、河原・千代南エリアで約50%減という数字が衝撃的でした。これを見ると、5つのエリア分けよりももっと少なくてもいいのではないかと感じました。旧気高郡内については選択肢がほとんどないくらいですので、千代川以西のエリアとまとめてもいいのではないかと、しかしそうすると旧八頭郡エリアだけが残ってしまうというようなことを思っていました。

## 委員

どこのエリアにおいても多様な考え方ができるのが、5つに分けるパターンではないかと思いました。問題は、そのエリアの望ましい学校数の設定の方だと思います。地域のコミュニティの考え方からすると、「0～1」という中の「0」という数字は非常に考えさせられるなどと思いました。これは、次の議

論になってくると思いますが、エリアの分け方としてはこれでいいと思います。

### 委員

私も5つに分ける方がいいと思っています。先ほど減少率の説明があったのですが、それをどこかに注釈で書いていただいた方がいいと思います。一般の方に見ていただく場合に、そのデータが数年の傾向を見たのではなく、ある程度根拠を持たせた統計的に算出した数字であることを示しておいた方がいいと思いました。先ほどもご意見がありましたが、学校数が「0」という数字が出てくると、少し気になる部分もあります。おそらく、エリアに中学校が「0」になるという考え方ではないと思うので、義務教育学校があるとわかりにくくなるのですが、トータルで中学校は義務教育学校も含めて「1～3」と書く方がいいのではないかと思います。5つのそれぞれのエリアに、学校を残すというメッセージを伝えるのであれば、合計で「1～〇」というような書き方にしてはどうかと思ったところです。

### 委員

私も5つに分けるパターンがいいのではないかと思います。旧岩美郡について、生活圏が同一であるのであれば旧行政区で分けてもいいと思うのですが、前回の議論の中で必ずしもそうではない部分もあるということでしたので、今回新たに提案のあったエリア分けがいいと思います。

### 会長

委員の皆さんのご意見を伺っていききましたが、5つのエリアに分けるのがいいのではないかということでした。6つのエリア分けですと、市町村合併前の旧行政区をそのまま当てはめるというものですが、既に市町村合併から10数年経過し、さらに今後20年後を見据えてということですので、そういった旧行政区ではなく、生活実態に即した形にした方がいいのではないかというご意見がありました。福部と国府はそれぞれ旧鳥取市と買い物などにしても日常の生活圏が一体となってきましたし、福部と国府を同一エリアにするにしても峠を越えなければならず双方がお互いに交流する機会もそれほど多くないということ踏まえると、今回新たに提案した5つのエリア分けの方が、いいのではないかということだったと思います。それでは、全体の方向としては、5つのエリア分けを進めていくということよろしいでしょうか。

次は、どのような書き方をしていくかということです。例えば、国府や福部から学校をなくすということを考えているわけではなくて、子どもたちにとっていい学校にしていくためにどうしていくのか、地域も発展するような学校の配置をどうしていくのかを提案していくような書き方になると思います。先ほど〇〇委員もおっしゃられましたが、児童生徒数の減少率は驚くほどの数値となっています。このままではいけませんので、本当は行政がまちづくりを進めていただいて、こういった数値にならないように進めていただきたいのですが、学校のあり方を考えていただく一つのきっかけとして記載しているものです。住民の方が、不安だけでなく期待も持てるような数字の書き方を考えていく必要があると考えています。この5つのエリアも、本当は少なくした方がいいのではないかという時期も来るかもしれませんが、今の時点では5つのエリアということにして、書き方について、あるいはそれぞれのブロックについてでも結構ですので、ご意見をよろしくお願いします。

### 委員

学校の数の表記の仕方についてですが、気高郡を見ると、鹿野には義務教育学校があって、現在気高で学校のあり方を検討されているということ踏まえると、中学校は「0～1」というような「0」表記はあまりよろしくないのではないかと思います。ただ、どういう表記がいいのか、なかなか難しいのですが、現在「中学校2、小学校5、義務教育学校1」とあるのが、義務教育学校として進むのであれば「義務教育学校3」となるというような表記がいいのではないかと思います。「0」からではなくて、現状からの表記がいいのではないかと思います。

### 委員

例えば中学校数が「1～3（義務教育学校の後期課程を含む）」といったニュアンスで書いていただ

いたら、将来的には1～3校残るようなイメージになるのかなと思っています。それから、このエリアについてですが、明確に境界が分かれていますので、将来的なことを考えるともう少しぼやかして、どちらのエリアにも考えられるような場所には薄い円などにして表してもいいのではないかと思います。

## 委員

先ほど「0」と表記をするかどうかという意見がありました。例えば、旧気高郡のエリアの整理としては、義務教育学校が全体で「1」ということも選択肢としてあり得るというようなことも入っていますが、それは地域生活拠点に学校を置くという視点では異なってきます。そういったところをどう見ていくのかということが本当に難しいところです。鹿野学園にしても、現状としては存続できるでしょうが、これから人口が減少していく中で将来的にも存続できるかどうか不透明な部分があります。もちろん、存続できるのであればそれでいいのですが、もしも存続が難しくなった場合についての含みも持たせておく必要があると思います。不透明な部分については、考えられる様々な場合のことも示していくことが、我々校区審議会としての使命なのだろうと思います。旧気高郡では、義務教育学校「3」という考え方もありますが、それも人口の減少幅が大きくなると、それも難しくなることも考えられます。したがって、そういった場合も踏まえたような書き方が必要だと思います。

## 委員

千代川の東側のエリアについては、3つから2つに設定されたのですが、千代川の西側のエリアを仮に1つにまとめると、中学校の数としては、東側のエリアとほぼ同数になってくるのではないかと思います。

街中よりも、周辺地域の小学校は地域の中心に他の生活拠点施設などと一緒に集約して配置されている傾向があります。小学校の再編をするにあたり基本的には中学校区を考慮されていますが、場合によっては他の中学校の小学校が近くにあることもあります。先ほど、少しエリアをぼやかすという意見がありましたが、それをこうした地域にどのように表現していくのがいいのだろうかと思いました。都会だと比較的当たり前になっていて校区を柔らかく考えられているのですが、鳥取では地形的な事情もあり、小学校の時点で既にバス通学を行っている学校もかなりある中で、校区再編すればするほど、通学距離がますます長くなる地域が周辺部には増えていくのではないかと感じました。

## 委員

鳥取市ではコミュニティ・スクールという形で、学校を核とした地域づくりというものを推進されています。その中で、統合をすることによって地域の閉塞感につながらないように、逆に地域で小規模校に通う児童を大事に育てていくような明るい前向きな方向に持って行く必要もあるのではないかと思います。表現の仕方については、「0」という数字は衝撃的な部分もあるので、そのあたりは文面で説明していくということでもいいのではないかと思います。

## 副会長

人口減少は今後も全国的に続いていくことだと思います。我々自治会では、地域を元気にしてなるべく地域に来ていただいたり、帰ってきていただいたり、そこで結婚をして子育てしていただいたりして、少しでも人口減少を緩やかにしていこうということを言って活動をしているわけです。南北線が開通することによって山陰近畿自動車道が将来的に全線開通ということになるわけですから、これによって随分と人の流れが変わってきますし、経済活動も変わってきます。現在過疎の地域でも、大繁盛する地域になる可能性もありますし、20年後ともなるとどうなるのか全く予想が付きません。確かに、単純に何も対策を打たずにやればここにあるような減少率に近くなると思いますが、色々な要素で必ずしもそうなるとはかぎりませんので、この減少率の設定もなかなか判断が難しいところです。ただ、学校のあり方の議論をしていただくために、こうしたまとめを示さないといけないわけですので、数字を出してまとめていくことは必要だと思います。住民基本台帳の人数で数年先の児童生徒数がわかりますが、そういったものを見て、地域から学校がなくなっていくということ、どうして存続させて

いくかということを考えて福部町ではコミュニティ・スクール、一貫校をつくろうということでまとめていきました。ただ、20年後には「0」になるということは、その地域の人にとってはショックだと思います。したがって例えば「1～3」とかといった書き方の方がいいと思います。

## 会長

校区審議会のこの答申は地域を元気づけるようなものにしていかないといけないと思っています。ただ、今のままですところいった数になってきますが、学校を核にその地域が発展するように、小さくても発展する学校を残すような含みも十分に入れながらまとめていきたいと思っています。

## 委員

私は、小学校・中学校・義務教育学校という3つの学校種を並べて記載するやり方ではなく、中学校（義務教育学校後期課程含む）、小学校（義務教育学校前期課程含む）というような形で整理するのはどうだろうかと思いました。また、学校数が「0」になるという課題の他にも、この地図を見ると、鳥取市としては各エリアに義務教育学校を設置したいのではないかというメッセージにも受け留められかねないという課題もあると思います。前回の議論でもあったように、義務教育学校はまだそんなに爆発的に増えているわけではないですし、義務教育学校にするかしないかは一つの可能性として考えていただければいいわけで、私たちが答申を出す時点で義務教育学校という選択肢を例示してしまうというのも危険ではないかという印象を持ちました。したがって、義務教育学校を取り出して示すのではなく、小学校と中学校の数の中に、義務教育学校の前期課程と後期課程を含ませて示せば、「0」という表記もなくなるのではないかと思ったところです。

それから、エリアの境界をぼかすということですが、それぞれのエリアに名前をつけるという中で、なかなか難しいと感じているところです。例えば、この地域は〇〇エリアではあるが、隣接する□□エリアとも話し合ってくださいということをする、境界にある学校がたくさんあるのでそこまで言及するというのはどうだろうかと思います。ただ、示した方がいいという考え方もあります。そうするのであれば、しっかりと境界にある学校を見ていかないと、ここの学校はぼかしているのに、あそこの学校はぼかされていないかということにもなります。そういうことをしているとなかなかきりがありませんし、時間もかかります。何とか令和2年度に答申を出していきたいですし、なかなか悩ましいと思いました。

## 委員

〇〇委員がおっしゃるように、色々書き出すとなかなか大変だというのは、まさにそのとおりだと思います。5つのエリアにするという大きな方針が決まったので、あとは気を付けないといけないことを丁寧に書き込むということができればいいのではないかと思いました。この地図を出すと、誤った形でメッセージが伝わってしまうという心配があるので、そこは文章に丁寧に説明を書いていくことが必要だと思いました。

児童生徒数の減少率についてですが、私の方にアドバイスを求められた経緯もありますので少しお話をさせていただきたいと思います。ちょうど今、私の研究室で将来の児童生徒数の推計を、コーホート分析で行っていて、今回の地図に示されている指数関数回帰を用いた分析の結果と異なっている部分があります。旧気高郡や旧八頭郡のあたりは市街地に比べて、人口構成の変化が少し先んじています。そういったエリアは、指数関数回帰で分析した結果ほど減少率は大きくなく、もう少し数字が落ち着いてきます。もちろん必ずそうなるということは言えないのですが、私の計算では50%以上減るという結果にはなっておらず、学校数が「0」にまでは下がらないのではないかと思います。色々なバックデータと照らしながらいくと、学校数について「0」ではなく「1」というような整理もできるのではないかと考えているところです。それから全体最適という、児童の移動距離を最適にする学校配置をどうしたらいいかという分析も行っているのですが、例えば青谷は湖東中学校のエリアと一緒にすると移動に関して言えば好ましいという結果が出ていますので、先ほどエリアの境界にグレーゾーンを設けてはという意見もありましたし、そういった可能性も書きこむということもあっていいのではないかと思います。

## 会長

色々研究室でも検討していただいておりますが、これからもよろしく申し上げます。

## 委員

この地図を見ると、パッと見た感覚としては非常にショッキングに見える感じもしますし、当初は詳しい説明を入れた方がいいのではないかと思ったのですが、〇〇委員が言われたような表記の方が受け入れていただきやすい部分も出てくるのではないかと思います。学校教育だけでなく、社会教育関係の審議会等でも学校区を一つの単位でということを考え方として盛り込んでいますが、そういったことを踏まえて20年後の学校ということ考えたときには、先ほど言われたような形の方がいいのではないかと思います。

## 委員

小学校と中学校の数の中に、義務教育学校も含めた方が「0」という表記がなくなって見やすいのではないかと思います。それから、旧八頭郡の部分で減少率が52%減少となっていますが、河原と用瀬と佐治を分離して減少率を見ると、おそらく河原の減少率はもう少し小さいのではないかと思います。また、20年後ということになれば、学校のあり方が今とはかなり異なってきて、学校はあってもほとんどの授業をインターネットで行ったり、学年ごとにスクーリングを行ったりというような毎日学校に行かなくてもよい時代が来るのではないかと思います。

## 会長

早いか遅いかだけで、そういった時代はいずれ来るだろうと思います。全部の学校がそうなるか、あるいは特定の学校がそういった仕組みになるとか、多様性の時代に入ってきたと感じています。

## 委員

「0」が表に出てくると衝撃が大きいのではないかという話があって、学校としては地域から「0」になるわけではないということがメッセージとしてあればいいのではないかというふうに思いました。ただ、現時点で地域から学校がなくなるわけがないと思っている地域もおそらく多くある中で、どこかで危機感を持ってもらう必要があると思います。学校に通う子どもが身近にいない世帯などは、そう思いがちなどころがあると思うので、学校を存続させることがどれだけ大変になってくるのかということや、本当に地域と関わっていく必要性というものを認識するためのメッセージが伝えることも必要だと思います。あまり衝撃を与えすぎるとも良くありませんが、子どもを学校に通わせている人だけの問題ではないということを、多くの人に伝わるような見せ方が必要ではないかと思いました。

## 会長

現時点では、国や市の適正規模の基準に基づいて学校数を整理していますが、学校教育を考えると、クラス替えができて色々な部活動ができるなど、ある程度の規模があることで学校運営も円滑にできるということで国の基準が示されているわけです。それに則った形で、学校数を出しているのですが、地域によってはそれには満たなくても魅力的な学校をつくっていくのであれば、必ずしも「0」にならなかつたり、「1」のところ「2」となったりすることも考えて、地域が発展していくということも必要かもしれません。おっしゃられるように、学校問題は保護者だけの問題ではなく、地域の発展の核になる部分ですので、皆で考えていくことが大切だということをおっしゃっていただくようなまとめになればいいと思います。表記の方法は本日のご意見を踏まえて、いくつかのパターンで提案させていただきたいと思います。この審議会の提案が、今のままでは大変なので、まちづくりも含めて考えていきましょうということになればと思っています。また、新しい教育のパターンも出てきます。実際に、パソコンを児童生徒が1台ずつ持って、それがノートになったり教科書になったりという仕組みが出てきますので、みんなで一緒に学ぶことと、一人で自分の進度に合わせて学ぶことの両方が同時になされる時代になってきていると思います。そういうのが当たり前になると、学校のあり方も随分変わってくると思います。ただ、クラスにたった1人の児童生徒ということではとても大変なので、地域の方が危機

感と併せて期待を持てるようなまとめができればと思っています。なかなか難しいのですが、この審議会の役目だと思っています。数字を出すことによって、地域がますます疲弊することにならないようにしなければならないと思っています。鳥取県の日南町は10数年前に小学校6つを1つにしました。そして、小学校と中学校の位置が隣同士なので、一貫教育をしようと思えば、いつでもできると思うのですが、今は別々になっています。そのあたりが今後、どうなっていくかはわかりませんが、小学校がなくなった集落は急速に元気がなくなっていったという話を聞いたことがあります。その中の多里小学校という木造でとても立派な校舎のある学校があったのですが、あまり間もなく現在の日南小学校に移ったそうです。立派な小学校だったものですから、何かもったいないなという気持ちにもなりました。少数人数でも、魅力ある学校づくりを進められるような、地域の活性化にもつながるようないいまとめができないかと思っています。次回は、そのあたりも含めて書き方などを考えてご提案させていただきたいと思っています。エリアについては、5つに分ける方向で考えていきたいと思いますが、場合によっては境界の部分はぼかすということも含めて考えていきたいと思っています。

## 委員

ぼかすという考え方ですが、そのようなことをしてしまうと、自由選択制などで学校を選んでいただいてもいいのではないかと校区審議会として思っている、目論んでいる地域ではそういった選択がされずに、ここをきっぱりと分けたいと考えている地域でむしろ自由に通学できるのだということにもなってしまう、そのあたりがうやむやになってきてしまう危険性があるように思います。

## 会長

そういった可能性はあるかもしれませんが、次回はいくつかのパターンをお示しして審議をお願いしたいと思います。それでは、基本的には5つのエリアでどのように学校を配置する可能性があるかということについて書き方を含めてご提案をさせていただきたいと思っています。

それでは、議事2の「千代川以西エリアの学校のあり方について」に入りたいと思います。考え方としては、大きく2つになるのではないかとこのところまでは議論しているのですが、事務局より資料の説明をしていただき、ご意見をいただきたいと思っています。

## 事務局

[資料説明]

## 会長

資料について、ご質問はございませんか。

この件については、かなり前から議論されており、答申が出たこともあるのですが、なかなか進まないという状況になっています。ただ、いつもでもそういうわけにはいきませんので、この審議会でも何か提案できるようにまとめていきたいと考えています。これから現地見学をしてきましたが、町内会がなかったり、橋を渡って城北公民館に属しているという地域もあったりしていて、そのあたりの兼ね合いの部分もあります。いずれにしても、児童生徒の安全ということを考えますと、結論を出していきたいと思っています。今のところ、この2つの案のどちらかがいいのではないかとこのところまできたかと思っています。どういう形が、児童生徒にとって良いのか、今後のまちづくりにとっても良いのか、議論していきたいと思っています。

## 委員

子どもたちの教育という観点から見て、義務教育学校というのは魅力的な部分もあると思いますが、学校が一箇所になると各地域から学校が一気になくなってしまいうということになってきます。そういった場合に、地域との兼ね合いを考えたときかなり厳しいものになるなと思ったところですが、いずれの方法をとるにしても、この千代川以西の課題を先行して具体的に検討していくということになると、その考え方を20年後の学校のあり方にも反映させていく形になってくると思います。そう考えると、ただ単純に千代川以西の城北小学校の児童が近隣の世紀小学校に通うというだけの話にはなっていないの

ではないかと思いました。

## 委員

世紀小学校あるいは大正小学校にしても耐用年数が経過してきているということがありますが、その時期に合わせて校区再編も絡めて動いていくというのが理想だと思います。20年後を見据えた校区再編の取り掛かりの一つにこの地域もなるのだらうと思います。この2つの小学校の改修時期にあたるということを踏まえて、20年後を見据えた校区再編に反映させていければと考えます。

## 委員

確かに世紀小学校と大正小学校の耐用年数を考慮しても校舎の改修検討時期に、千代川以西の城北小学校の児童は、世紀小学校なり大正小学校と一緒にした方がいいのではないかとと思うのですが、どういった形を取るのがいいのかということについては、現時点では何とも申し上げられません。

## 委員

私も中長期的な学校のあり方との整合性を図ることが必要だろうと思います。校舎を建てますと、耐用年数が約50年ということになりますので、20年後の学校のあり方を考える中で、当然20年後もその校舎を使い続けるということになってくると思います。考え方としては、このあたりのエリアに学校を配置するというようなものでいいかと思えます。具体的な場所については、地域の方々が話し合われたり、その意向をもとに議論したりということになると思います。このエリアについて、中長期的な学校のあり方の議論では、中学校が2校、義務教育学校が0～2校くらいではないかということです。このエリアの選択肢にも影響してきます。校区審議会にこの地域に学校を1つということになると、千代川以西のエリアの他の学校配置はこういうイメージを描いているということを持ちながら決めていくということになるかと思えます。

## 会長

20年後の学校のあり方と整合性を図りながら、場合によってはこのエリアが出発点になるような形になるかもしれません。

## 委員

一点確認ですが、義務教育学校のパターンとしては、1中4小という形しかないのでしょうか。

## 事務局

今、おっしゃられましたのは、高草中と世紀・大正・東郷・明治小のパターン以外に考えられないかということであったかと思えます。仮に、現在の高草中学校区を維持しながら義務教育学校を設置することになると、このパターンに限定されてくるかと思えます。ただ、4つの小学校のうち、高草中校区いくつかの小学校を高草中校区から外して、他の中学校区へ再編したり、その小学校区からなる新たな中学校をつくったりという考え方もあるかもしれません。

## 会長

1つの中学校にその校区の小学校も集まるとすれば、かなり大きな義務教育学校となってきますが、義務教育学校を別につくって、高草中学校は中学校として残すという考え方もあります。いずれにしても、小規模の明治や東郷はぐっと少なくなってくるので、どういう形がいいのかということがあります。ただ、距離のことを考えると、課題があります。一方で、目の前に子どもの安全という課題もあり、そこはなるべく早く解決したいと思えます。皆様のご意見を伺いながら、いい方向を出すべき時期にきていると思えます。

## 副会長

やはり校区審議会としての職務を全うする必要があると思います。第14期で結論を出すべきだと思います。私としては、義務教育学校を設置する方向に賛成です。本日、別紙で配られている、他県の義務教育学校の資料がありますが、いずれも児童生徒数が1,000人以上の学校となっています。皆様のご意見を伺っていると、義務教育学校になることで悪い部分が出てくるのではないかというようにも受け取れる時があります。しかし、義務教育学校というのは決してそうではなくて、色々なことができるわけです。学校運営を考えれば、魅力があるのではないかと思います。福部未来学園も、魅力ある学校にするということで、教職員・保護者・児童生徒・地域が一体となって頑張っているという例があります。義務教育学校になったからといって、学力が落ちるとか、悪いことをする子が出てくるとかといったことはないと思います。したがって、義務教育学校を新築して、面積が足らなければ買収するなどして確保していけばいいと思います。それぐらい前向きな気持ちで進めていかないと、新しい取組はできないと思います。

## 委員

事務局にもう1点確認ですが、参考資料24ページに義務教育学校の課題の記述に「敷地面積を踏まえると、現在の美保小よりも狭小となる。」とありますが、これは、令和元年の人数の959人で考えるとそう言えるということでしょうか。

## 事務局

申し訳ございません。こちらは、前回の資料の令和7年度の推計人数をベースにした場合の記述をそのまま、誤って掲載しております。

令和元年度の児童生徒数をベースにして計算しますと、美保小学校の児童一人当たりの敷地面積は約20㎡/人となり、世紀小学校又は高草中学校に義務教育学校を設置した場合の児童生徒一人当たりの敷地面積はいずれも約24㎡/人となります。したがって、この部分の表現の仕方としては、「現在の美保小に比べて若干広い」ということになるかと思います。そのように訂正をお願いいたします。

## 事務局

このことに関連して、前回の資料からこの部分を令和7年度の推計数字から令和元年度現在の数字に改められた理由を申し上げたいと思います。今年度の住民基本台帳をもとに未就学児童数等の人数をもとに計算すれば、6年後の令和7年度までの推計をすることができます。しかし、実際にそれがどれだけ正しい数字かと言えば、不確かな部分があります。そこで、平成25年度時に、同様に6年後の令和元年度まで推計した数字がありましたので、確認を試みました。当時の推計によると令和元年度に1,121人になるだろうとされていましたが、令和元年度の実際の児童生徒は959人で、162人もの差異が生じています。この差異が生じる理由としては、この地域から転居・転出された方、この地域には住んでいるが附属校など他の学校に通学している方がおられることが挙げられるかと思います。鳥取市全体の児童生徒数の推計も確認しましたところ、約900人程度差異が生じています。附属小学校は1学年が80人でしたので、6学年で480人となります。これが6年先には、鳥取市立の学校から減ります。さらに、附属中学校の1学年が160人でしたのが、その約半分が附属小学校から進学してくることを考慮しますと、中学校から入学してくる生徒は3学年で240人となります。この240人も鳥取市立の学校から減ってきます。つまり、6年先には附属小・中学校への進学者数が約720人ということで、その分が鳥取市立の学校から減ることになります。その他の転居・転出、特別支援学校や私立中学校へなどへの進学といった要因を合わせてざっと900人の差異が生じているものと思います。そういったことがありますので、令和7年度の推計を基にしたところで、あまり確からしい数字にならなかったことがわかったので、会長とも相談し、今回は現時点の令和元年度の数字をお示しいただいております。

また、先ほど仮に校舎建設に十分な面積が確保できなかった場合、購入するぐらいの強い気持ちで向かわないといけないのではないかというご意見がありましたが、教育委員会としてはそういった覚悟もごございます。したがって、校区審議会での審議にあたっては、土地の有無についてご配慮いただく必要はないと考えています。ただ、本日のご意見いただいたような、学校の規模としてはどうなのか、

東郷や明治の子どもたちのことを考えるとどうなのかということについては、ご審議いただければと思います。

## 会長

例えば、高草中学校の周辺には市営住宅がありますので、場合によっては市の方で敷地の調整もできるかもしれませんし、世紀小学校の周辺には田んぼが広がっていますので、農地を転用していただくということも考えられます。本当に子どもたちのためにとということであれば、教育委員会でも敷地の確保などに向けて努力されると思います。我々としては、子どもたちの教育、鳥取市の教育にとってどういった学校をつくれればいいかということ千代川以西について考えていけば、新しい魅力というものが生まれてくるのではないかと思います。

## 委員

世紀小学校や高草中学校の耐用年数が経過してきているということを踏まえて考えたときに、例えば世紀小学校の位置に新しい学校ができたとして、それをきっかけに千代川以西の城北・大正・東郷・明治の小学校もそこで一緒になるということも考えやすいのではないかと思います。そこを義務教育学校として中学生も加えていくとなると大人数の学校となり、果たしてそのような学校で教職員として生徒指導や多様性を持った児童生徒の対応などができるのだろうかと思いました。鳥取にはまだそういった大規模の義務教育学校がないので、少しイメージしにくい部分もあります。また、一方で子どもたちにとっても、そういった環境がどうなのかということもあります。ただ、世紀小学校の校舎の耐用年数のことを考えると、そこに新たに小学校をつくって、中学校については高草中学校に通学することにして、千代川以西の児童生徒は当面は選択できるなど緩やかに移行していく期間を設けてはどうかと思いました。正直なところ、既存の小学校と中学校に校区再編をするのがいいのか、義務教育学校にするのがいいのかどちらがいいかということは現時点では判断できません。

## 委員

千代川以西の城北小学校区の方々のことを考えると、単純に世紀小学校、高草中学校に再編するということはこれまでもそうした議論を長年してきても実際にそう動かなかったわけで、難しいと思います。そうした中で、義務教育学校として、魅力的な学校が新築されて、より広いエリアからなる学校ができるということは、今までの前提を覆すだけの力はあると思います。ただ、そうすると、明治・東郷小のことが気になる部分があります。私案としては、明治の下から東郷の中村に抜けて江山の倭文につながる農道がありますが、明治・東郷から江山学園までスクールバスを通すと、神戸から江山学園に通学する距離くらいで収まりそうだと考えました。東郷の下のあたりは古海のあたりまでは近いので、新しい義務教育学校に通学したいということもあるかもしれませんが、東郷の上に住む児童や明治の児童が江山学園までスクールバスで通学するということが考えられるのではないかと思います。先ほど〇〇委員のご質問もありましたが、義務教育学校の他の考え方として、現在の高草中校区の南半分を江山学園校区にして、スクールバスを通してはどうかと思いました。実際に、路線バスを考えると明治谷・東郷谷・河原の谷という3本のそれぞれの谷へは古海から抜けますが、そういったことを考えると路線バスを通学に使うことは難しいので、そこに関してはスクールバスを通せばいいのではないかと思います。そうすると世紀・大正・千代川以西の城北が、新しい義務教育学校ということになりますが、全校児童生徒が800人程度の規模となります。県内ではこれまで小規模化に対応するためにやむなく義務教育学校にしてきたということがありますが、そういった発想を覆す新しい義務教育学校の姿を打ち出せるのではないかと思います。他県にはそういった学校もありますが、県内では初の大規模義務教育学校となり、学校の魅力も生むという意味では、千代川以西の城北小学校区の方々の気持ちも踏まえるとバランスが取れるのではないかと思います。

## 委員

私の中では、1校の義務教育学校にまとめるというイメージはあまりなく、小規模の縦割りの中で、地域性を持ちながら教育を行うというのが義務教育学校の良さだろうと思っていました。それが複数の

小学校、地域が合わさってうまく良さが出てくるのだろうかと思いました。ただ、それ以上の工夫をして魅力を持たすということでは、ありではないかとも思います。私としては、千代川以西の城北小エリアを中心に、賀露小校区の一部や湖山小校区の一部で構成される新しい小規模の義務教育学校をつくるということをイメージしていました。単純に世紀小・高草中に再編するパターンと、義務教育学校にするパターンについてそれぞれ一長一短あって今のところ判断がつかないところです。

## 会長

皆さんから色々なご意見を伺ったり調査をしたりしながら引き続き検討していきたいと思います。

## 委員

私は〇〇委員とほぼ意見が同じなのですが、千代川以西のエリアの方に参画していただいて新しい学校をつくるという意識を持っていただかないと、いつまでも賛成が得られないと思います。そう考えると、今ある学校に編入ということは考えられないと思います。やはり新設の学校であったり、義務教育学校であったりという考えになると思います。義務教育学校とする場合に、高草中校区でまとめばうまくできると思うのですが、複数の小学校が集まって一緒になるというのはかなりのエネルギーが必要です。東郷・明治小もそれぞれ独自性を出されているので、なかなか難しいと思います。そう考えたときに、世紀小学校の西側を湖南学園に再編する、また、明治小学校は江山学園よりも湖南学園に近いイメージがあるので湖南学園に再編するということではどうだろうかと考えました。残りの世紀と、大正、東郷、千代川以西の城北で新しい義務教育学校をつくるというのが規模的にも適当になってくると思いますし、統合の相手も少ないので話がしやすいのではないかと考えています。その中で、もし東郷が江山学園の方が良いと言われるのであれば、その選択肢もあると思います。今のイメージとしては、東郷は大正に近いのかなということもありますし、千代水地区も大正地区と近いので、そういった形で義務教育学校をつくってはどうかと思いました。したがって、高草中校区と千代川以西の城北小校区を一つの義務教育学校としてまとめるというのはなかなかハードルが高いので、既存の義務教育学校への再編も進めながら、新しい義務教育学校を中規模でつくれるくらいの案だと話が進みやすいのではないかと考えています。

義務教育学校には悪い部分もあるのではないかとされているのではという意見もありましたが、それは義務教育学校をつくる議論の過程で、学年で見たところの小規模には変化がないという点においてメリットが少ないと言われているだけで、私も含め審議会の委員の皆さんも、鳥取市の義務教育学校はとて素晴らしい学校であるという考えを持っていると思います。そういったこともありますので、私としては、このエリアにおいて義務教育学校という形で話をしていければと考えています。

## 委員

義務教育学校という案がありますが、そもそもなぜここに義務教育学校という考えを入れられないのか、私の中で十分に理解できていないところがあります。地域の中で新しい学校をつくる中で、義務教育学校をつくりたいという議論は出てきてもいいと思うのですが、あえて校区審議会として義務教育学校ということを提示していくことは本当に必要なのだろうかと思いました。このエリアの中で、新しい学校を一つつくるという方針のもと、近隣の小学校との統合または新しい義務教育学校をつくるという提案の仕方ではどうだろうと思いました。義務教育学校にするかどうかということは、新しい学校づくりの目的も検討しながら、地域で決めることで、あえて義務教育学校と決めなくてもいいのではないかと考えています。昨日小規模校転入制度の会議があったのですが、東郷や明治にしてもそれぞれの地域の特性を生かして地域と協力しながら取組を行っているところですので、この千代川以西エリアの学校のあり方の議論の中に、高草中校区の全部の学校を巻き込むのが本当にいいのかということは、私としては少し不安があるところです。江山学園で様々な議論の中で、河原や、周辺の南中校区の倉田や、高草中校区の大正などの近隣から江山学園に行きたいと言われるような学校にしていこうということでやっています。確かに先ほどご意見があったような、東郷小学校を江山学園にということもあるかもしれませんが、ただそういった話の前に、まずは高草中校区の4つの小学校と千代川以西の城北小校区の5つのエリアの中でどういった組み合わせがいいのかというのは、そのエリアの中での話になる

だろうと思いました。今回のこの千代川以西の話でいけば、近隣の小学校と合わせて一つの学校をつくるという形でいいのではないかと思いました。そして、世紀小学校、大正小学校、高草中学校の耐用年数が経過してきているということは、市役所としては大きな課題だと思いますが、果たしてそのことと校区の課題を一緒にしていいのだろうかとも思います。財政的な話は少し別の話ではないかと思えます。個人的な意見を申し上げれば、このエリアは世紀ではなく大正と一緒にの方がいいのではないかと思えます。例えば、そういった再編をして学校の位置をもう少し北側の鳥取市のテニスコートの場所辺りに移して、新しい学校あるいは義務教育学校をつくってはどうかと思いました。高草中や世紀小を巻き込んで義務教育学校をつくるというのは少し乱暴のような気がします。

## 会長

今おっしゃられた、テニスコートというのは線路の北側になると思いますので、そうすれば線路をまたぐという危険性もなくなってくるということですか。

## 委員

実際には、線路の下をくぐって通学していると思います。

## 会長

今伺いする中で、色々なお考えが出てきました。これまで長年解決できなかった理由として、安全ということや、既存の中学校との関係性というようなことが絡んできている点などがあると思います。そういった部分で、魅力的な学校をつくるということを地域の方と共に行うことで新しいまちづくりにもつながってくるのではないかと思えます。大きな義務教育学校をつくるのか、高草中学校を残したまま大正小学校を動かして義務教育学校とするか新しい小学校とするか、中学生については経過措置として10年くらいは自由選択制にするか、など色々な意見がありました。ただ、それぞれに課題がありますし、色々ご提案をいただきましたので、本日の意見を整理して次回以降も検討していきたいと思えます。中長期的な学校のあり方と併せて、提案できるようにしていきたいと考えています。児童生徒の安全を第一に考えるということと、魅力的な学校にしていくという視点を持って進めていきたいと思えます。明治も東郷もそれぞれ小規模転入制度の中で、様々な工夫をされています。特に、湖南学園は30人規模で校区外から子どもが集まってきている現状もありますので、どこの学校においてもどういった魅力を生み出していくか、子どもの力をどうやってつけていくかということも大事だと思います。学校規模の基準を上回るということそのものが魅力ということもありますが、小規模校でもできる魅力というものもありますので、地域と一緒に考えていけるようなまとめにできればと考えています。例えば河原地域においても、西郷では考える会ができていますのですが、河原第一や散岐ではそういった組織が立ち上がっていないということがありますので、それぞれの学校区で20年後を見据えて早めに考える会を立ち上げていただく必要があるのではないかと考えています。本日は、千代川以西エリアの学校のあり方について結論は出せませんが、次回も引き続き審議をお願いしたいと思います。

最後に次回の日程調整をさせていただきたいと思えます。

それでは、次回は令和2年5月11日14時からということでお願いします。

本日は、中長期的な学校のあり方においての、ブロック分けについて結論が出ました。新しい鳥取市になって15年が経とうとしていますし、これからさらに20年後を考慮すると、地域生活拠点ということも尊重しながらも鳥取市全体としてどう考えていくか融合した形で検討を進めていきたいと思えます。千代川以西については、どこの学校が近いかということもありますし、魅力的な学校をつくる、あるいは学校の位置を変えるということも含めてもう少し資料を整理しながら進めていきたいと思えます。これについては、今期で結論を出したいと思えます。よろしくをお願いします。

## 事務局

慎重なご審議、大変ありがとうございました。以上で第9回鳥取市校区審議会を閉会します。

令和 年 月 日

会 長 本 名 俊 正

議事録署名委員

署名委員 山 田 康 子

署名委員 福 山 敬